

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年 月 日記入

基本目標	ゆとりある みどり豊かな環境共生都市をめざして	施策コード	23210
政策名(章)	第3章 安全に暮らせる都市の実現をめざします	評価担当部	市民部
基本施策名(節名)	第2節 安心して暮らせるまちづくり	評価担当課	交通・地域安全課
施策名	交通事故のないまちづくり	課長名	江成政興

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

市民を交通事故から守るため、道路や交通安全施設の整備充実に努めるとともに、関係機関等との連携により、交通安全意識の高揚を図るなど、交通安全対策を推進します。
これらの取り組みにより、交通事故件数は平成12年をピークに減少に転じている。また、負傷者数も減少しているが、死者数については、20人前後で推移している。

2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		353,141	本施策体系には、工事関係事業が多数含まれており、工事完了に伴う減と交通安全施設整備事業の減によるもの
人件費		86,779	
市民一人あたりの事業費	923	660	
合計	568,463	439,920	

*人件費は、職員一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

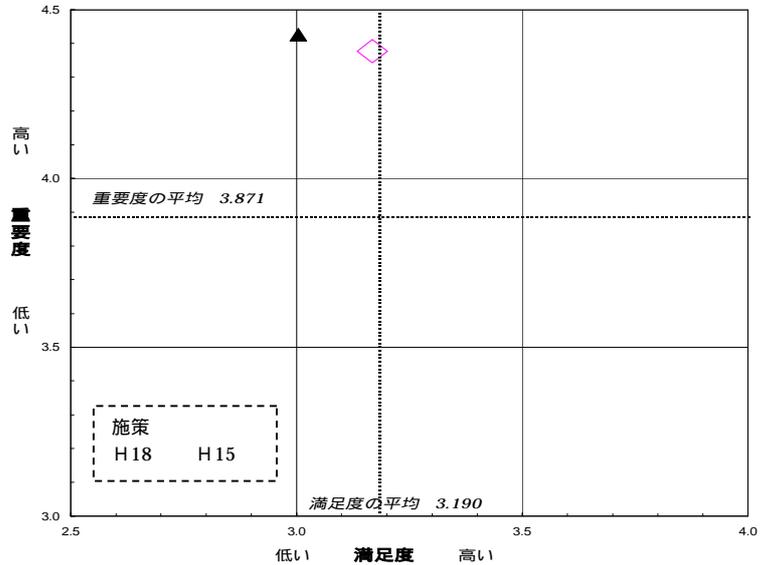
3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	人口千人当たり事故発生件数	交通事故発生件数 / 人口 × 1,000 (H16交通事故発生件数:5,416件 / H16.1.1人口:660,366人)	8.2件	H16
指標2	全事故に占める自転車事故率	自転車事故発生件数 / 全交通事故発生件数 × 100 (H16自転車事故発生件数:1,602件 / H16交通事故発生件数:5,416件)	29.60%	H16
指標3	高齢者人口1万人当たり事故発生件数	高齢者関係事故件数 ÷ 高齢者人口 × 10,000 (H16高齢者関係交通事故発生件数:857件 / H16.1.1高齢者人口:88,812人)	96.5件	H16
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	7.8	H19	7.0件	H21	6.4件	基準値に対し、毎年5%の減を目標とする。
達成率	100%					
指標2	28.6	H19	26.70%	H21	24.90%	神奈川県自転車事故多発地域の基準である全交通事故に占める自転車事故の割合25%未満を目標とする。
達成率	107%					
指標3	91.7	H19	82.7件	H21	74.2件	基準値に対し、毎年5%の減を目標とする。
達成率	102.6%					
指標4						
達成率	#DIV/0!					
指標5						
達成率	#DIV/0!					

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.168で51施策の中で26番目。
 重要度は4.377で2番目である。
 改善要望度は0.3730で5番目である。
 年齢別にみると、満足度は60歳代以上で高く、40歳代でもっとも低くなっている。
 重要度は20歳代でもっとも高く、他の年代では大きな差はみられない。
 前回調査と比較すると、満足度の施策の順位は前回調査より大幅に上がり、重要度は前回調査と同様である。
 満足度の順位では、20～60歳代は前回調査より大幅に上がっているが、70歳以上は大幅に下がっている。
 重要度の順位では大きな違いはなく、全ての年代で上位5施策に入っている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	2	安全・安心まちづくり推進協議会は、旧交通安全都市推進協議会が実施していた交通安全啓発活動を引き継ぎ、防犯関係活動も加え、安全・安心まちづくりを進めるために、市内の98団体により設立された。設立後は、啓発活動を中心に、適時適切な取り組みが行われており、結果として、交通事故件数、犯罪件数ともに減少している。	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	2	安全・安心まちづくり推進協議会は、従来、別々に実施されていた交通安全活動と防犯活動を、安全・安心まちづくり活動として、関係団体が相互に連携し、総合的・一体的に行うことを目的に設立されたものであり、事業実施方法の見直し等により、効率的、かつ、効果的な活動が可能となった。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	2	カーブミラー、防護柵、道路照明灯、カラーシート塗装等の交通安全施設は、市民の生命財産を直接的に守る事業として、市民などからの要望を受け、補修及び新設工事を行っている。	
合計		6	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 B

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	安全・安心まちづくり推進協議会活動について、全市的な啓発活動等に加え、地域の特性に応じた自主的な活動を行うことにより、地域住民が交通安全及び防犯を自分たち自身の問題として捉え、活動するための意識づくりを図る必要がある。
解決策	各地区に設置した安全・安心まちづくり推進協議会支部を中心に、地域の関係団体が連携した安全・安心まちづくり活動(交通安全と防犯)の推進を図る。

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

今後とも、市内関係機関との連携や交通安全施設の整備、市民への啓発などに努め、施策の推進を図っていく必要がある。	2次評価 B
---	-----------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

